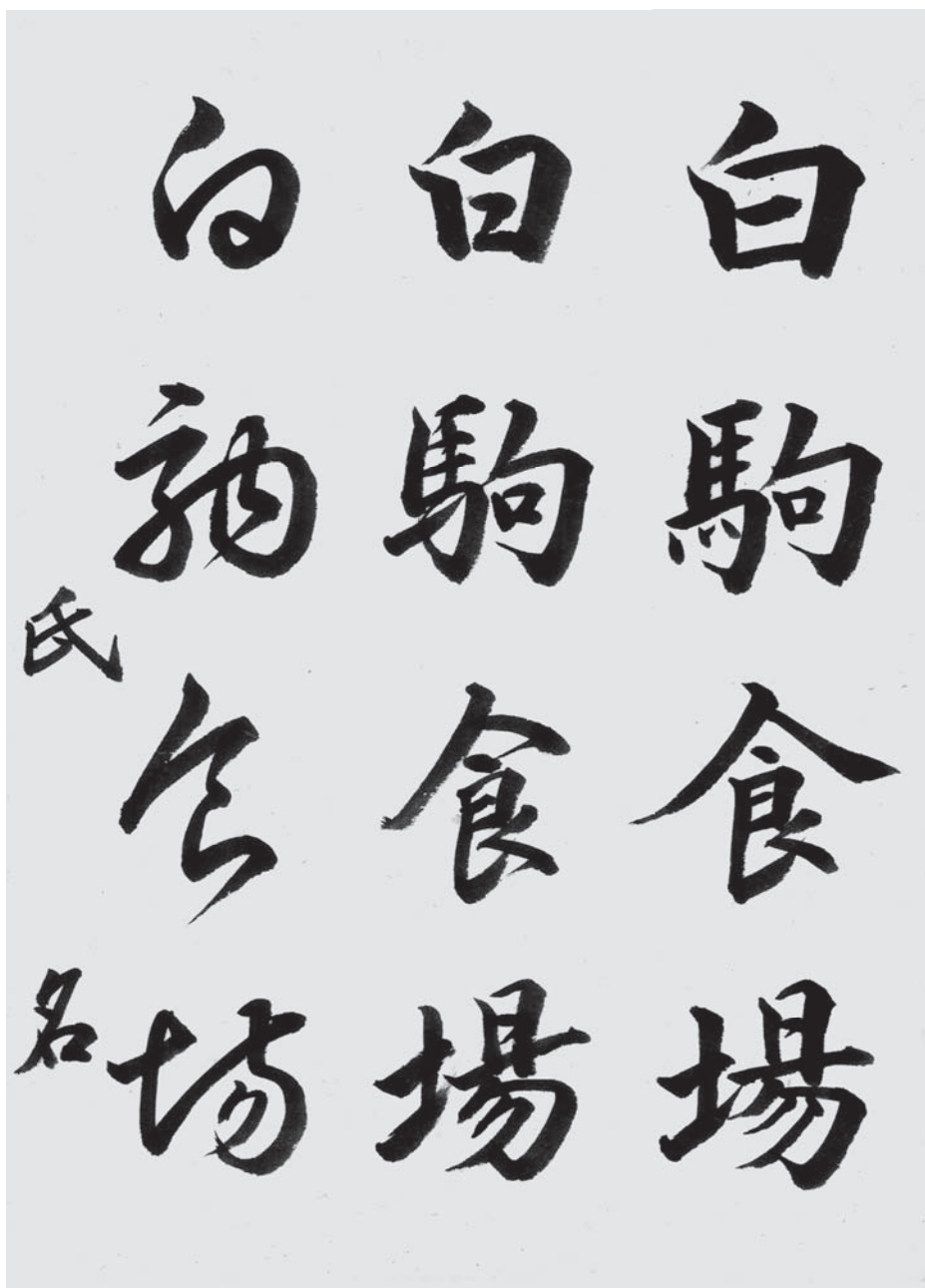


三体千字文を書く (34)

締切り 十月二十五日 (必着)



奥村憲照先生書

回作品の出し方

- ▼硬筆部ⅡB5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)
- ▼毛筆部Ⅱ半紙に書いて下さい。(筆ペン可)
- ▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬・毛のどちらか一方に限ります。
- ▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。
- ▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

◆硬筆の専門誌だった大書心に一般毛筆部が設立されたのは、昭和五十六(一九八一)年四月のことです。

◆「三体千字文」課題からスタートし、

憲照先生の穩健中正で気品のある手本が好評を博しました。

◆短期特別課題として、平成二十四年一月から二年間学びましたが、今回はその続きです。

◆原点に返って、基本用筆と正しい崩し方をしっかり学びましょう。

〔千字文〕

四言古詩二五〇句、重複しない千字からなっており、聖徳・修養・修身・齊家等について述べられた習字手本であり、初學者の教科書でもあった。

梁の武帝(在位五〇二〜五四九)の命を受け、周興嗣が王羲之の筆跡からまとめたといわれる。

〔解説〕

鳴鳳在樹

白駒食場

鳳凰は樹の上で鳴き、
白駒は畑で草を食べる。

〔訂正〕先月号の「読み」の中で色とあるのは食の誤りでした。おわびして訂正いたします。

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕

〔解説〕

◎今月は楷書。最初は一点一画の筆法を学ぶが、ペン字では線の書き方が大切で、いかに形がよくても魅力的な美しいペン字にならない。

▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。

本
当
機
会
減
多
訪

人生滅多に訪れない
本当に重大な機会は

シ
ラ
ー

おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

使	少	よ
ふ	し	き
と	鈍	細
い	き	工
ふ	刀	は
	を	

細
工
少
鈍
刀
使

長く払う

おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

▼教範・書範＝行書
▼師範＝楷書

◆11月課題予告（行草または草書）
多弁と雄弁は別もの
愚者はお喋りし
賢者は理解を促す

★本当に：（書体＝楷書）
シラー（一七五〇～一八〇五）
ドイツの劇作家
のちの運命を決定づけるような重大な機会は、人生の中では数度しか訪れません。その機会を見逃すことなく、しっかりと捉え、それを生かし、ものにしなければならぬと言っています。機会は瞬間であり、その一瞬を自分のものにできるかどうかでしょう。

◆11月課題予告（楷書）
習慣とは
人間生活での
偉大なガイドだ

★よき：（書体＝行書）
吉田兼好（一三三〇～一三五〇）
鎌倉時代の随筆家
優れた細工を作るときは、刀は少し切れ味の鈍いものを使うといひます。仏師の妙観が使う刀も切れ味はそれほど鋭くありません。
このことは、ものを作ることだけに限らず、人生にも、才能や文学にもあてはまる言葉でしょう。

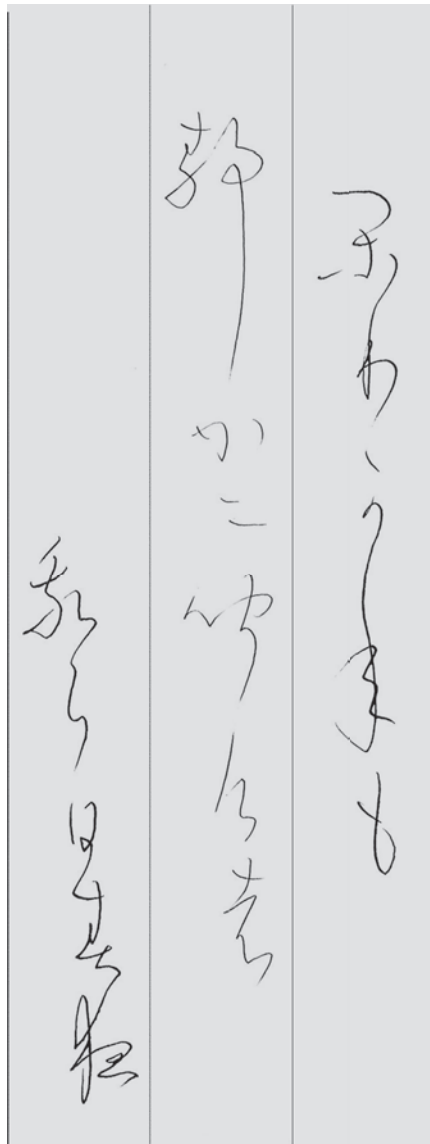
一般部かな課題

締切り 10月25日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

閑利可年二介者我日春夜
雁がねも静かに聞けばからびずや

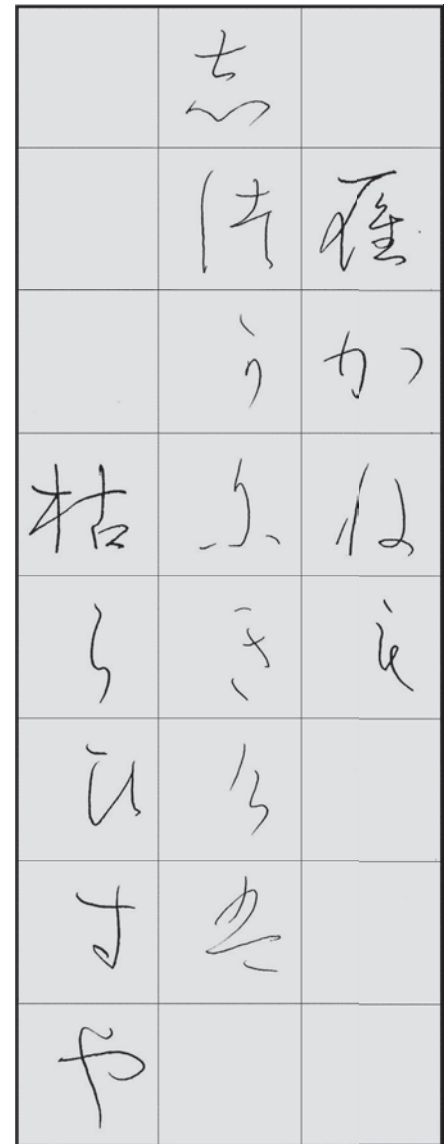


たなかきこう 書
田中貴光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

毛志徒可尔き介盤枯寸
雁がねも静かに聞けばからびずや



たなかきこう 書
田中貴光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆11月課題予告

よもすがら秋風聞くや裏の山
(河合曾良)

〔解説〕〈雁・枯・閑〉など第一角めは、ペン先を紙に突込むように書く。〈年〉の横角は、三本とも方向を変えて、同じ方向へは書きません。

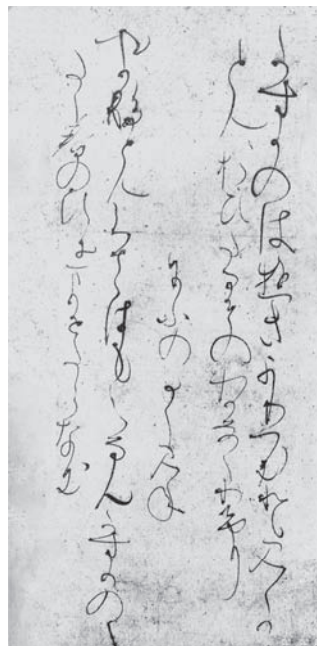
閑か 徒っ 盤は 春す 夜や
閑か 徒っ 盤は 春す 夜や

〔古筆参考〕

雁がねも静かに聞けばからびずや
(越智越人)
〔句解〕毎夜毎夜聞く雁の声も、こうして静かに聞けば、枯びた味わいがございませんでしょうか。
〔鑑賞〕深川芭蕉庵での一夜、対座した芭蕉への静かに語るような口調のこの句は、すぐれた挨拶となっている。
〈からびずや〉は反語で、〈枯び〉とは枯淡の味わいをいうのであろう。

〔古筆参考〕

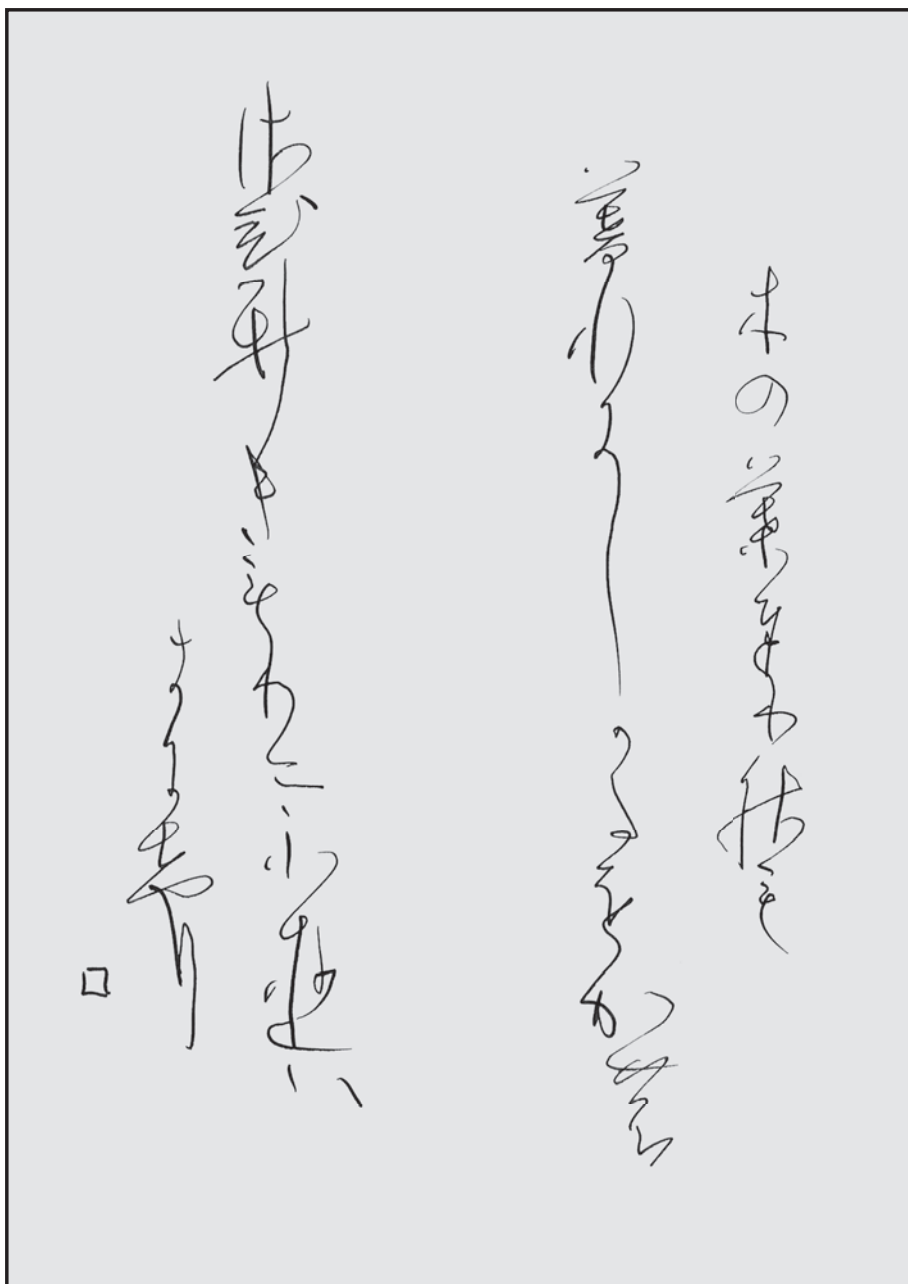
こ
香 し
紙 ぎ
切 れ



可
かすがのはゆきふりつむとみ(し)か
可
どもおひたるもの(は)わかなくりけり
可
やかすともくさはもえなんかすがの
可
たゞ春のひにまかせたらなむ

締切り 十月二十五日(必着)

築瀬舟香書

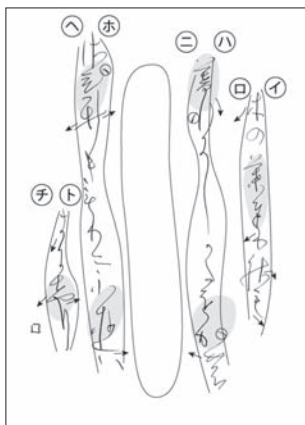


木の葉散り秋も暮れにし片岡の
さびしき森に冬は来にけり

〔歌意〕木の葉が散り、秋も暮れてしま
まった寂しい片岡の森に、いよいよ冬
がやってきた。

〔出典〕金槐和歌集

〔解説〕



・①と②、①と③、①と④、①と⑤、
①と⑥、①と⑦、①と⑧、それぞ
れ呼応。

・密の動き、○余白(間)の取
り方、行のゆれ、ふくらみ大切。

・ノの方向大切。

・○点の位置大切。

◆11月課題予告

夕月夜沢辺にたてるあしたつの
鳴く音悲しき冬ぞきにける

締切り 10月25日(必着)

先日、娘の授業参観に行きました。
書記として皆の話し合いを黒板に
筆記していましたが、要点をまとめ
つゝ丁寧に書くのは大変な様子。
書いては消しの繰り返しでしたが
良い勉強になったと思います。

先日、娘の授業参観に行きました。
書記として皆の話し合いを黒板に
筆記していましたが、要点をまとめ
つゝ丁寧に書くのは大変な様子。
書いては消しの繰り返しでしたが
良い勉強になったと思います。

※手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。
(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

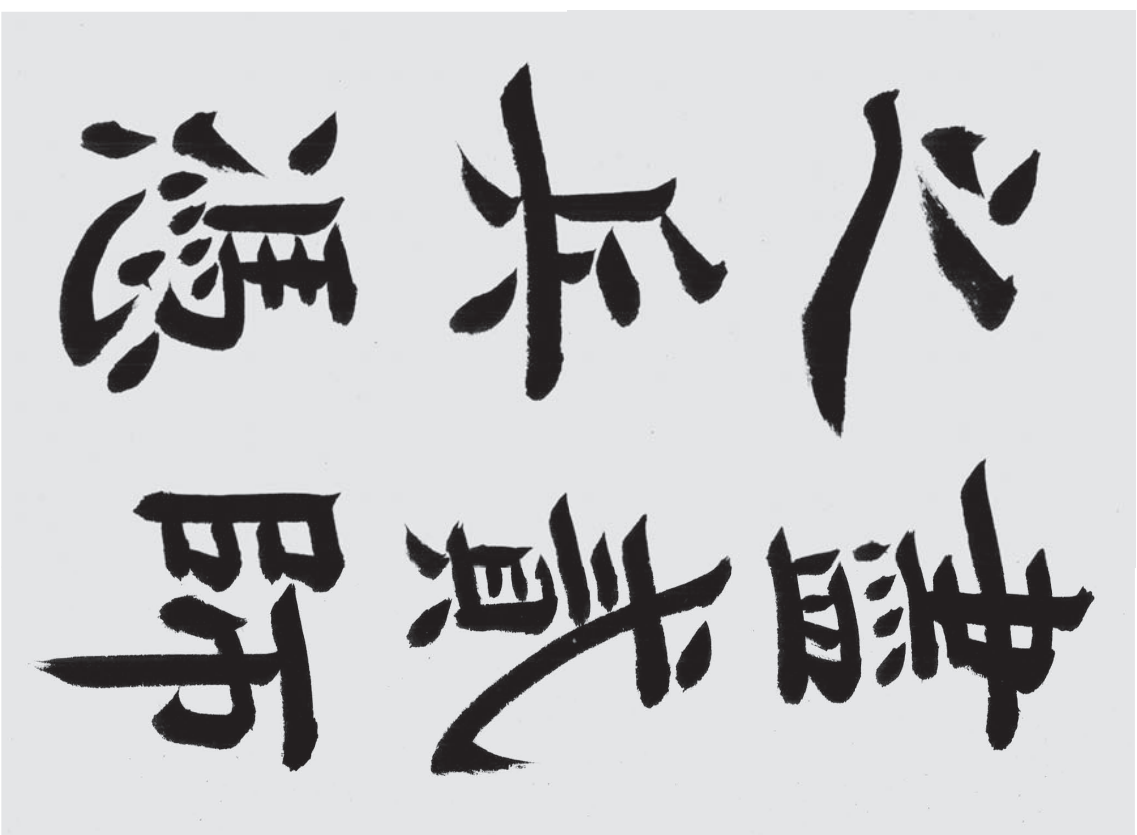
パイプオルガンは、古くは皇帝ネロ
に愛用され楽器の王と呼ばれた。

長野県伊那市 氏 名

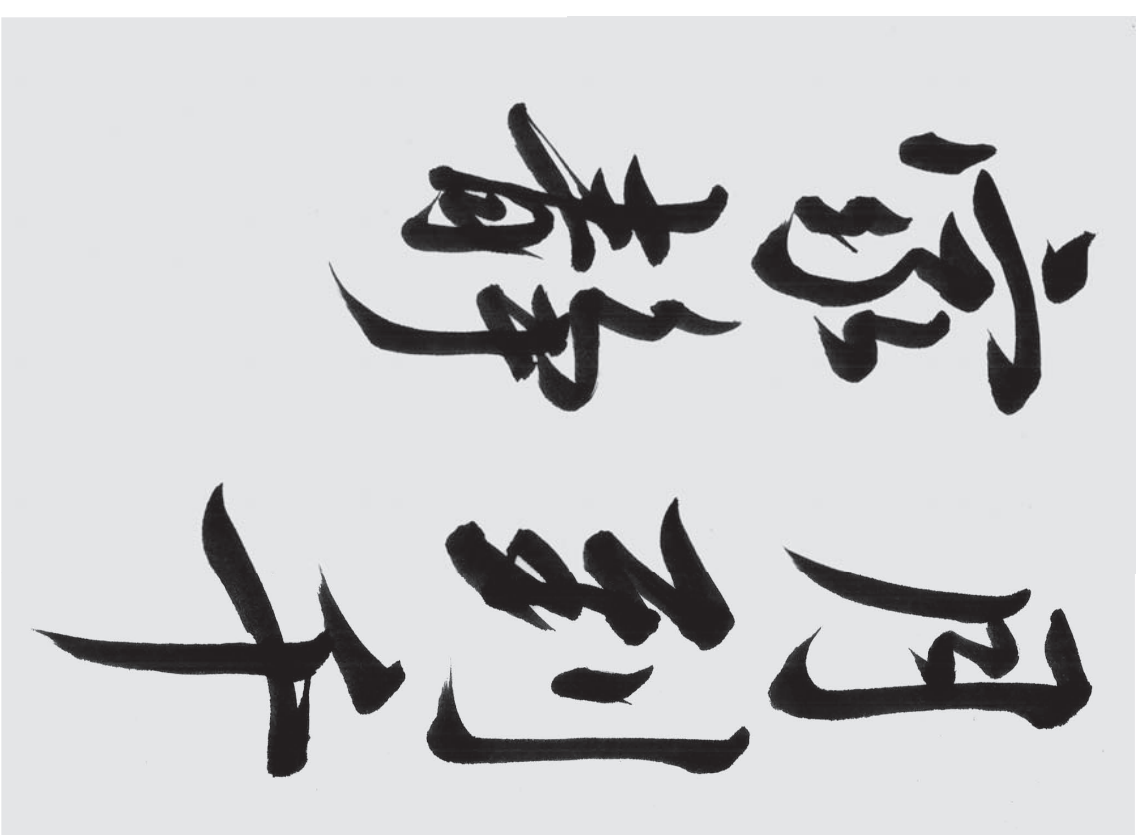
※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

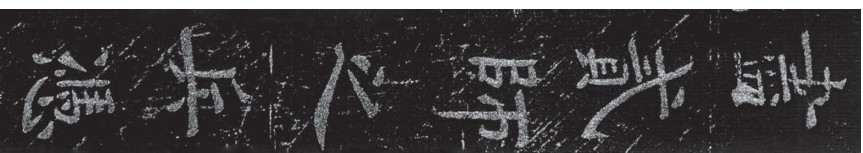
締切り 10月25日(必着)



〔出典〕 孔子廟堂碑（626～633） 〔筆者〕 虞世南（558～638）
 〔読み〕 盡^{じん}貳^し師^し之^の兵^{へい}を^を尽^{つく}く^くし^し憑^{ひよう}（^{りよう}凌^{りよう}ます^{ます}す^す甚^{はなは}だ^だし。）



〔読み〕 月^{つき}千^{せん}家^かに^に到^{いた}り^りて^て静^{しず}かな^{かな}り
 〔大意〕 月^{つき}の^の光^{ひかり}が^が家^{いえ}々^々を^を照^てら^らし^して^て静^{しず}かな^{かな}な^な夜^よで^である。



盡 貳 師 之 兵 憑

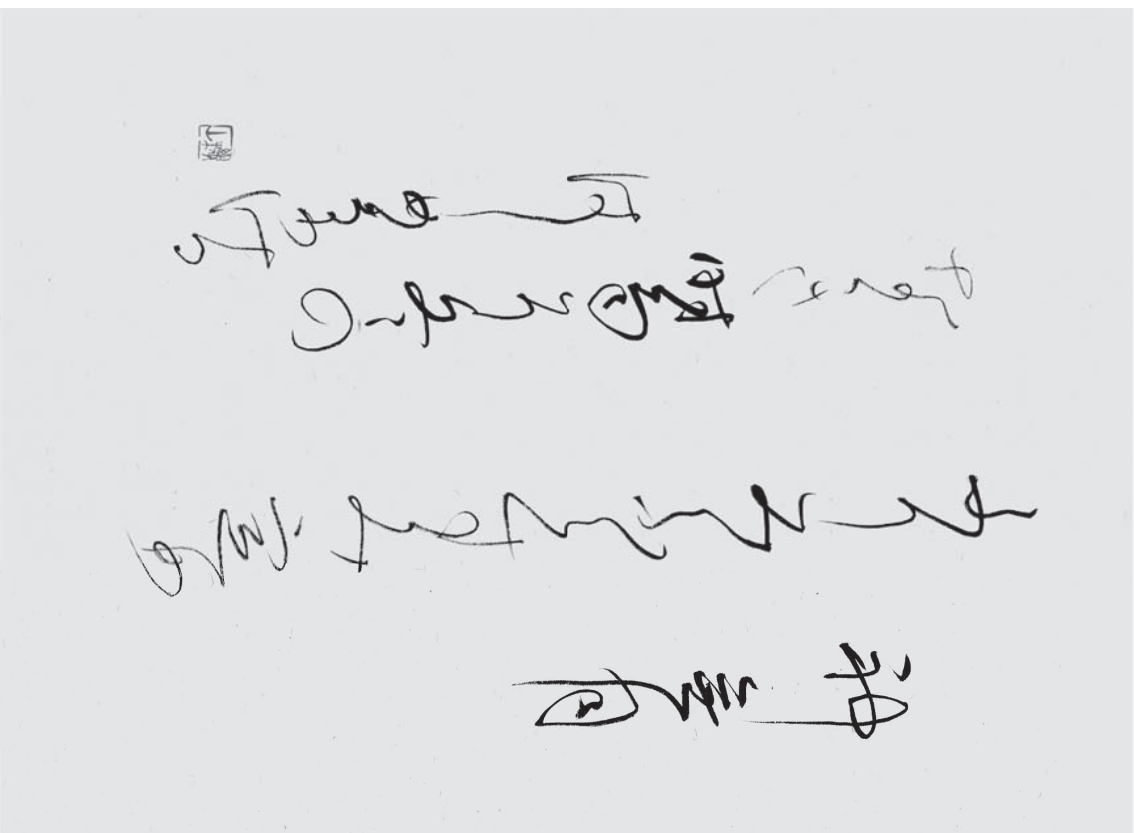
準初段から師範まで
 奥村暢之 臨

新入から1級まで（行書）

須田一葉 書

一般部毛筆かな課題

締切り 10月25日(必着)



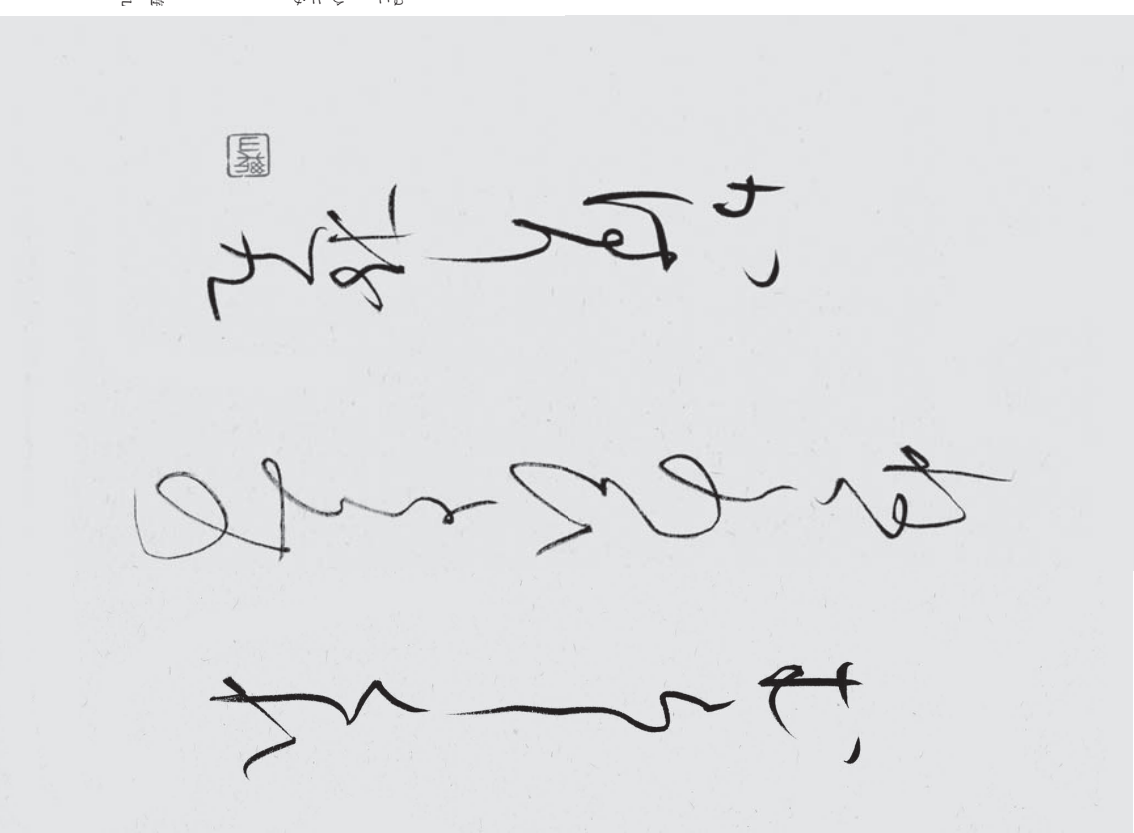
神無月ふりみらずみ定めなき
時雨ぞ冬の始めなりける
奈利

【出典】 読人しらず「後撰集」

【歌意】 十月となり、降ったり降らなかったり、いっこうに定まらない
時雨こそが、冬の初めの印である。

準初段から師範まで

■ 両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。



むらしぐれ猫の瞳子のかはり行く
猫の瞳子のかはり行く
猫の瞳子のかはり行く

【出典】 小栗旨原

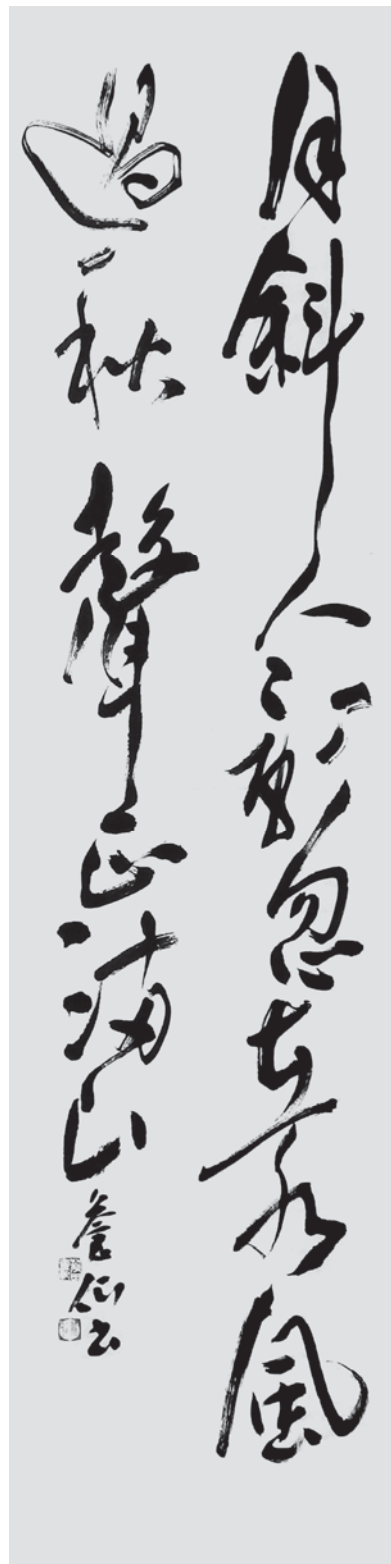
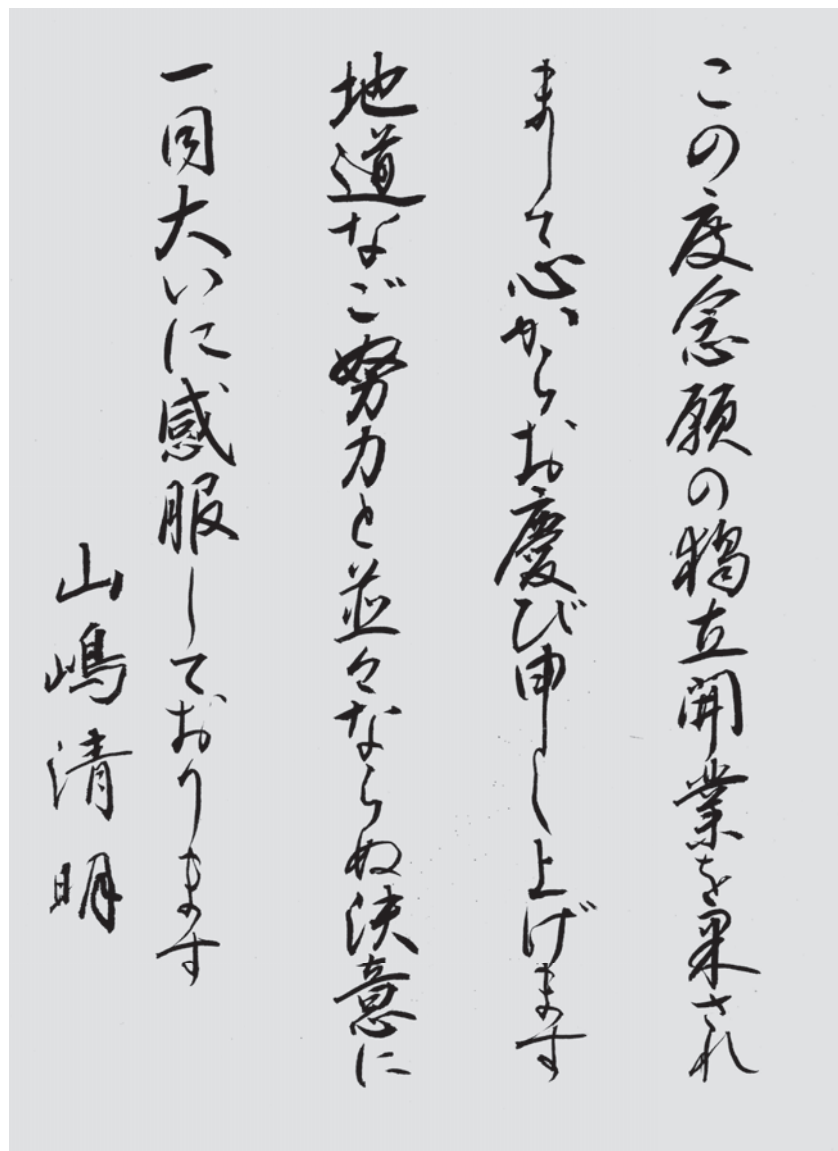
【句意】 しぐれが降って来た。その光りの具合で猫の瞳が敏感にかわつて行く。

新入から1級まで

浅井機山先生書

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



締切り 十月二十五日（必着）

半切（一二六cm×三五cm）

荻田蒼仙書

半紙（334mm×240mm）

書 華 玲 田 樋

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績（天位〜5等）は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〔条幅・細字作品の出し方〕

・印で墨つぎしました。

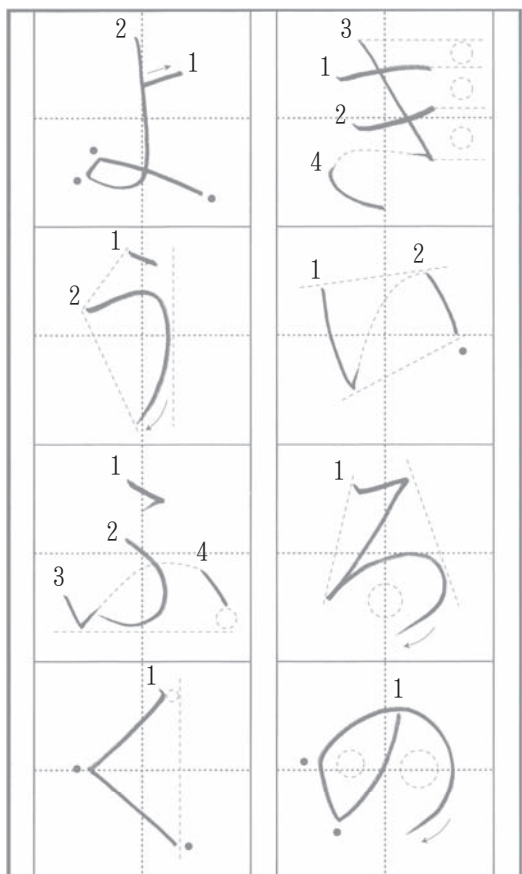
（ご自分の氏名）

この度念願の獨立開業を果され
まして心からお慶び申し上げます
地道なご努力と並々ならぬ決意に
一同大いに感服しております

〔条幅解説〕 臨書：自分には無い新しい何かを見
つける喜びを意識しながら書こう！
ある著名な会長が講習会に「楽しんで書かな
あかん」と。成る程これも大切なことなんだ！

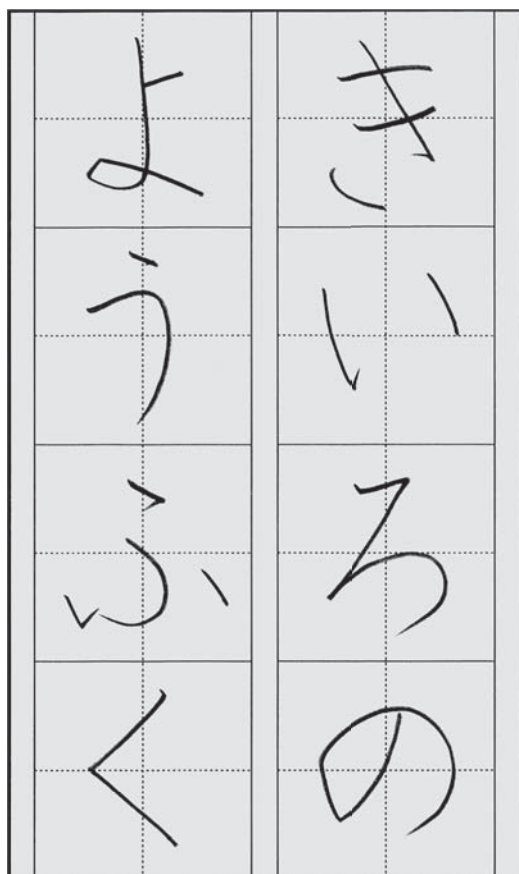
つきななめにじんえいたちまちみずにあ
り月斜人影忽ち水
かぜすきてしゅうせいまさによまにみつ
風過秋聲正満山
〔大意〕 月が斜に入ら
んとして、人の影は水
に映じ、風が吹き過ぎ
ては秋声が山に満ちる。
初出品の方へ
支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)



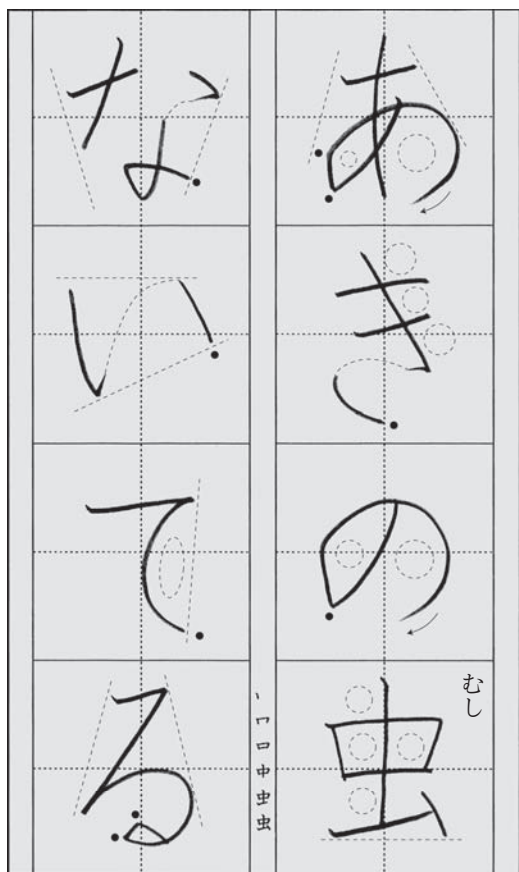
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



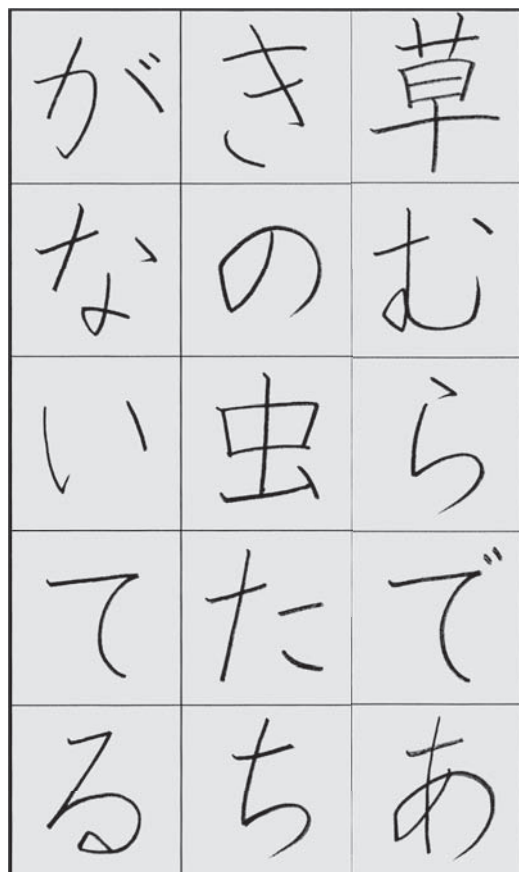
よ
う
年

幼年〜小三年まで
三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

リ 月 月 月	月 ガツ 一十オ木本	本 ホン よ
の ノクダ	読 ヨミ 読読読	読 ヨミ よ
夕 ゆう	む ユウ	む ユウ
ベ 一十	十 ジュウ	十 ジュウ

新入1級

十	か	ひ
月	に	と
の	本	り
夕	読	し
べ	む	ず

小二年

準初段以上

所 ショ	里 リ
へ	い
配 ハイ	も
る	近 キン

新入1級

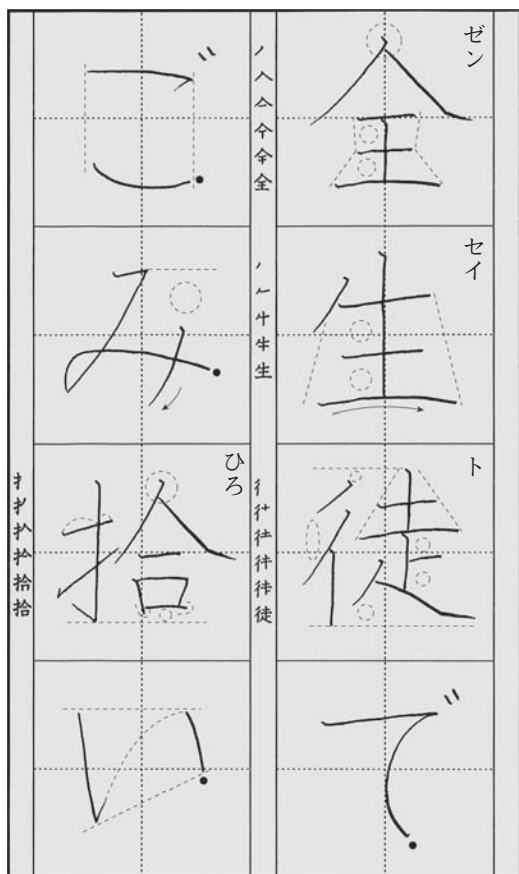
近	を	畑
所	箱	の
へ	に	里
配	入	い
る	れ	も

小三年

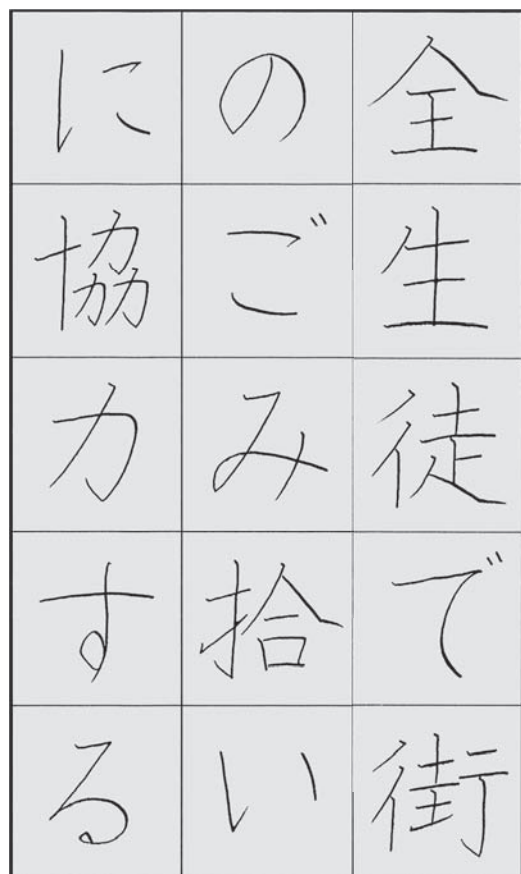
準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具〉自由(黒色に限る)

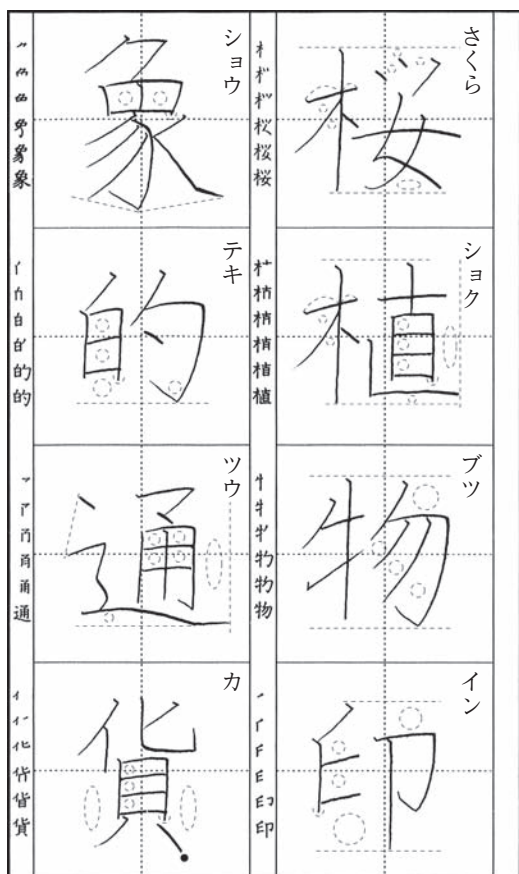


新入1級



小四年

準初段以上



解説(よく見て習いましょう)



小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

小四年以上
岡嶋桂川書

〈用具 自由(黒色に限る)〉

行	班
綿	修
密	学
計	旅

解説(よく見て習いましょう)

計	行	班
画	の	で
立	綿	修
て	密	学
る	な	旅

小六年

(全員)

候	援	体
補	団	育
し	長	祭
ま	に	の
す	立	応

中二・三年 (行書)

溪	空	澄
谷	と	み
の	色	渡
紅	づ	る
葉	く	秋

中一年

(行書)

▼小三年以下の課題

すぎ 杉 うら 浦 けい 恵 すい 翠 書

き	赤 ^{あか}	緑 ^{みどり}	見 ^み	遠 ^と
れ	、	色 ^{いろ}	え	く
い	黄 ^き	か	る	に
だ	色 ^{いろ}	ら	山 ^{やま}	
ね	に		は	



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 10月25日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題

おお 大 さき 崎 すい 水 しゅう 愁 書

送 ^{おく}	光 ^{ひか}	毎 ^{まい}	山 ^{やま}	母 ^{はは}
っ	る	年 ^{とし}	に	の
て	栗 ^{くり}	ピ	囲 ^{かこ}	故 ^こ
来 ^き	が	カ	ま	郷 ^{きょう}
ま		ピ	れ	は
す		カ	て	
		に	い	
			て	

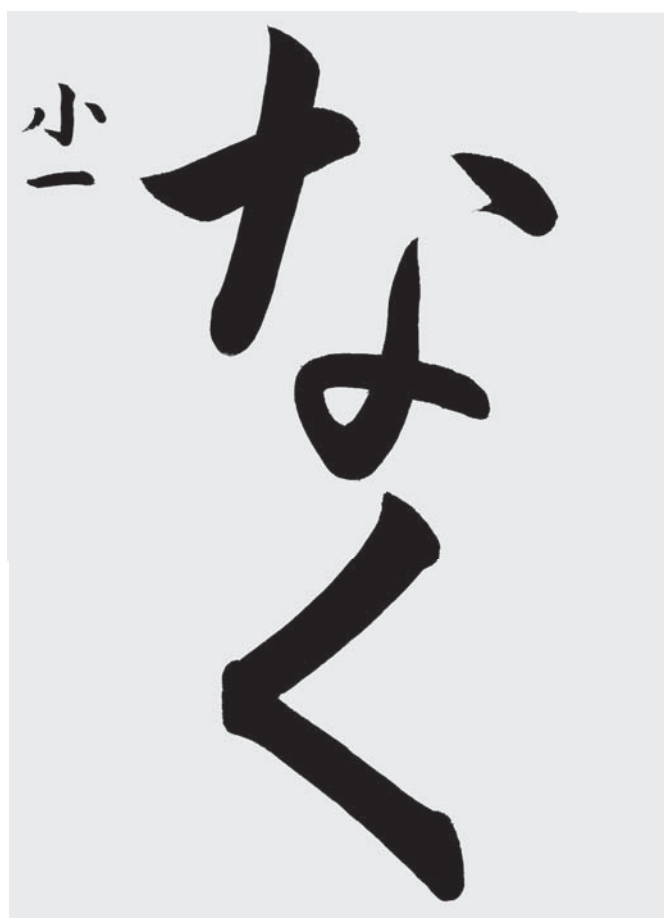


◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。







小三、小五年
水野香竹書

中二・三
忘 旅
援 学
長 行

小六
修 旅
学 行

修 旅
葉 援
長 紅

とめ
右上がりに
とめ

中一
紅 谷
葉 の